

『男女がともに自立・参画し、高めあう創造都市 浜松』を目指して

すべての人が性別にかかわらず個人として尊重され、自らの意思により個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現は、私たち市民の願いです。

浜松市は、浜松市婦人行動計画及び浜松市男女共同参画計画を策定するなど、男女が共に創造する社会を目指した取組を総合的かつ計画的に展開してきました。

しかしながら、今もなお「男は仕事、女は家庭」という言葉で表現されるような性別による固定的な役割分担意識やそれに基づく社会慣行が存在しており、真の男女平等の達成にはいまだ多くの課題が残されています。

世界に誇る技術を有する企業を生み育ててきた本市において、商工業や農業等を支える女性の労働力は重要な位置を占め、まちづくりにおける女性の活躍も顕著になってきています。また、少子高齢化の進展、家族形態の多様化、多くの外国人の定住化など、市民を取り巻く環境も大きく変化しています。こうした社会経済情勢の変化に対応するためには、市、市民、事業主及び市民団体が協働して、男女があらゆる分野に対等に参画できる社会を実現していくことが重要です。

『浜松市男女共同参画推進条例』前文抜粋

『みつけよう あなたのカタチ 男女共同参画読本』

発行 浜松市
編集・制作 特定非営利活動法人はままつ子育てネットワークぴっぴ
監修 森俊太（静岡文化芸術大学文化政策学科教授）
発行日 平成 28 年 3 月

市民部 UD・男女共同参画課
電話：053-457-2561 FAX：053-457-2750
e-mail: ud@city.hamamatsu.shizuoka.jp

本書の無断複写は著作権法上で禁じられています。

みつけよう
あなたのカタチ



これはあなたの△。
あなたの△ひとつが抜けても、
みんなの参画は達成できません。

男女共同参画読本

「男女共同参画」ってどんなこと？
どうして必要なの？

私たちのまわりで
どんなことが起こっているの？

1. 家庭での男女共同参画 ～リセットしよう固定概念～

家庭での性別役割分業

「ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭の調和)」と聞くと、夫婦が仕事と家事・育児を「半分ずつ」負担し、行うことのようにとらえてしまう人がいます。しかし、夫婦がお互いに話し合い、どのような分担をするのが良いのか、その夫婦に合った割合で生活すればよいのです。



■「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に関する意識の変化

調査時期	女性				男性			
	賛成	どちらかといえば賛成	反対	わからない	賛成	どちらかといえば賛成	反対	わからない
S54.5月	29.1	41.0	18.3	4.5	35.1	40.5	13.4	4.0
H21.10月	9.5	27.8	32.0	26.5	11.9	34.0	30.4	20.7
H24.10月	12.4	36.0	30.4	18.4	13.3	41.8	25.2	15.8
H26.8月	11.2	32.0	34.2	17.4	14.2	32.3	32.0	14.5

※内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(昭和54～平成24年)、「女性の活躍推進に関する世論調査」(平成26年)より作成

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という性別役割分業の意識は、「反対」あるいは「どちらかと言えば反対」という人が徐々に増えています(東日本大震災後は一旦、「賛成」あるいは「どちらかと言えば賛成」が増加しました)。



「育メン」「家事メン」

海外と比べると、日本で「育メン」「家事メン」になるのは、ハードルが高いと言われるのは本当でしょうか？例えば、子どもの食事。スウェーデンなら、食品を電子レンジであたためるだけでも充分OKなのが、日本では、子どもの栄養等を考慮し、手をかけたものを用意しないと、ママに認めてもらえないこともあるようで、日本で「育メン」「家事メン」になるのは大変です。まずは家庭内で「〇〇しなければならぬ」「〇〇するべきだ」の壁を抜いて、時には電子レンジでチン！もOKすると、お互い息を抜いてバランスの良い分担ができるのではないのでしょうか。



育児と介護のダブルケア

晩婚化・晩産化の影響もあり、子育てと介護を同時に行う家庭が増えています。また、働いている人が親の介護が必要になった時に、仕事を辞めざるを得なくなる(介護離職)ことが問題視されています。「育児・介護休業法」などの法律はできましたが、それを利用するためには地域や職場の理解と家庭内での話し合いが必要です。



ジェンダー・ギャップ指数

▼ジェンダーギャップ指数(2015年データ)

分野	2015年			2014年			2013年		
	指数	順位	順位	指数	順位	順位	指数	順位	順位
総合	0.670	101位	104位	0.670	104位	105位	0.670	104位	105位
政治	0.103	104位	129位	0.103	104位	118位	0.103	104位	118位
経済	0.611	106位	102位	0.611	106位	104位	0.611	106位	104位
教育	0.988	84位	93位	0.988	84位	91位	0.988	84位	91位
健康	0.979	42位	37位	0.979	42位	34位	0.979	42位	34位

女性ユーザーが多い軽自動車などに、**女性の声**が反映されるような仕組みを企業も積極的に作り、女性活用をしています。また、男性保育士や看護師、女性エンジニアや女性の車掌など、**女性や男性の専門職のように思われていた職域で男女ともに活躍**するようになってきました。政治の分野でも女性議員が増え、さまざまな審議会での**女性委員の登用**も徐々に多くなってきています。しかし、諸外国と比べるとまだ下位にあるので、政治・経済活動や意思決定の場へ女性が参画することが望まれています。世界経済フォーラム(WEF)が毎年公表している各国の社会進出における男女格差を示すジェンダー・ギャップ指数では、**日本は145か国中101位**(2015年データ)です。

column ついイラツとしちゃう、あのことは

妻のキモチ

手伝おうか？

「手伝う」じゃなくて主体的にやってよ!!

そのほかにも...

- 三食昼寝付 ← 主婦は遊んでるんじゃない! 家事も重労働だよ!
- 生返事 ← ちよつと! 私の話、ちゃんと聞いてよ〜!!
- 世の中のごと知らなさすぎ ← どうして上から目線なの!?
- 俺、疲れてるんだよ ← 私だってヘトヘトだよ〜(泣)
- どっちでもいい! ← だから〜ちゃんと意思表示してほしい!

夫のキモチ

こんなやり方じゃダメ!

一生懸命やったのに! やる気喪失だ!

そのほかにも...

- (夫の)給料が少ないから、生活が厳しい! 何でも人のせいにするなよ!!
- 生返事 ← おれにはちゃんと話を聞かせていうのに! 言われたことを、早くやってよ! どうして上から目線なんだよ!?

2. 職場での男女共同参画 ~お互いの認め合いで変わる働き方~

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の必要性

ひとりひとりが仕事に責任を持ち、家庭や地域生活などにおいてもライフステージに応じて多様な生き方が選択・実現できることは大切です。仕事と生活についてどんなバランスが良いのかは、人により違いますし、同じ人でもその時の状況によっても変わります。自分が望むバランスのとれた生活の実現のためには、周囲の理解が必要になります。職場ではお互いに気持ちよく仕事をするためにも、普段からのコミュニケーションを大切にし、お互いにカバーし合える関係性作りを心掛けてみてはどうでしょうか。



女性が活躍するために

女性は能力があっても、妊娠・出産するかもしれないからと、責任ある仕事からはずされることを「ガラスの天井」といい、子育て中の女性が、昇進や昇格からは縁遠いキャリアコースで働くことになることを「マミー・トラップ」といいます。男女にかかわらず、子育てをしてもやりがいのある仕事を任せられ、それをやり遂げたい気持ちは同じです。もしかしたら企業側は、子育てと仕事の両立の大変さを気遣ってのことかもしれません。しかし社員の中には子育てを理由に責任ある仕事から外れてしまうのではなく、子育てを通じて経験したことを仕事に活かしたいと考えている人もいます。職場の「過剰な配慮」や職員の「過剰な権利の主張」からは何も生まれません。企業側と社員とがコミュニケーションをよくすることで問題解決したいものです。



P.04のcolumn
「子育てをすると、仕事もスキルアップする!」
もぜひ参考にしてください。

男性の働き方改革

周囲の人から、「父親になったなら、これまで以上に仕事に打ち込まないとね」と声をかけられたことはないですか？父親になったからこそ、仕事も子育ても家事もやりたいと思っている男性もいます。企業が長時間労働を是正し、**ポジティブ・アクション**※により男女間格差を是正すれば、社員は互いに責任を分かち合いながら、家庭で家事・育児・介護等へ参画できるようになります。すると社員は労働時間内に効率よく仕事をし、生産性を上げ、企業イメージもアップ。その上、素晴らしい人材の確保ができ、費用対効果が上がると、企業のメリットもたくさんあります。また男性も、「仕事が忙しいから仕事の日には育児・家事ができない」という考え方を改め、「仕事の日でも育児や家事を行うために、仕事の段取りをする」というチャレンジをしてみてもどうでしょうか。



※「**ポジティブ・アクション**」とは、固定的な男女の役割分担意識や過去の経緯から、「営業職に女性はほとんどいない」「課長以上の管理職は男性が大半を占めている」等の差が男女労働者の間に生じている場合、このような差を解消しようと、個々の企業が行う自主的かつ積極的な取組をいいます。

column

子育てをすると、仕事もスキルもアップする!?

子育ては、想定外の連続です。それでも**その状況を上手に調整しながら生活している**と、おのずと身につく能力があるのです。その能力は、実は、仕事でも充分活かすことができるのです。

「**子どもと共に、親も成長する**」ということをよく耳にしますが、「まさか、親の仕事の能力までも伸ばしてくれるのか?」と思ったあなた!子育てを実践してみませんか?

時間管理能力

子どもは予定通りに動きません。想定外の事故のようなことが起こっても動揺せず、問題解決して用事を済ませることができるようになります。

企画力

子育てを通じて、これまでになく多くの人の出会いがあり、これまでの自分ない発想が湧いてきます。新しい発想は、新しい企画提案や、新しい問題解決力へとつながります。

プロデュース力

子どもは些細なことでも、良いことをほめて育てれば伸びます。同様に、職場のスタッフの個性をうまく活かすことは、業績アップにつながります。

連絡調整能力

子育てはたくさんの人の協力があると、心強いです。たくさんの人に協力してもらいながら、余裕をもって子育てするうちに、連絡調整能力も高くなります。

忍耐力

子どもはなんでもすぐに出来るようになりません。子どもとかがわっていると、「待つ」ということが多くなります。部下を育てると同様だと思いませんか?



column

これって「死語」!?

こんな言葉は、いまでも使われているのでしょうか?

●肩たたき

職場で結婚をすすめて退職に追いやること。

●腰掛け

主に女性が、結婚までの短期間仕事するという働き方。

●家事手伝い

主に女性が、結婚前などに仕事につかず、家事を手伝いながら花嫁修業(これも死語かも)している時期のこと。



●お茶くみ

主に女性が、職場でお客様にお茶を汲む仕事。

●職場の花

主に若い女性が、職場で仕事の能力とは関係なく、存在することで職場に花がある雰囲気になるといふこと。男性社員の花嫁候補としてだけとえられること。

●寿退社

結婚をきっかけに、主に女性が退職すること。

●永久就職

主に女性が、結婚して専業主婦になることをいう。現在は、「結婚しても仕事を続けてほしい」という男性が増えている傾向があるなど、「結婚して専業主婦=安泰」という考え方が少なくなっている。

3. 地域社会での男女共同参画 ～忘れないで地域参画～

「普通は〇〇」「△△は当たり前」という固定観念を取り除く

固定観念にとらわれてしまうことで、誰かを傷つけてしまったことはありませんか？自分だけの価値観で判断する前に、その人の立場や状況などを考え、かかわりあっていきたいものです。

また、地域社会に残る古くからの慣習やしきたりによって、役割が性別によって制限されていることはありませんか？男女が共に地域活動に参画することは、住みやすいまちづくりにつながります。



地域活動に参加

女性は地域のネットワークなどがあり、地域社会で生きがいや楽しみを見つけいきいきと生活しています。男性も、できることなら若いうちから、地域の中に入り込み、職場とは違った地域のネットワークを作っておくことが、定年退職後も生きがいを持ち続け、充実した生活につながるのではないのでしょうか。最近「イクメン（地域で活躍する男性）」という言葉もあるようです。みなさんも「イクメン」を目指してみませんか？



男女共同参画意識

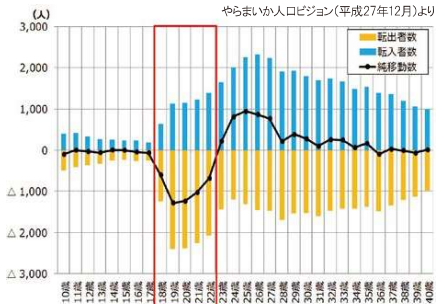
地域・浜松の魅力



教育による男女共同参画の理解

子どもの頃から男女共同参画について理解することは、とても大切です。学校で、ひとりひとりの人権、男女の平等、みんなが社会参画すること、男女が協力して家庭を築くことの大切さ等を指導していくことは、男女共同参画社会が実現され、さらには地域の魅力創生につながります。

少子高齢化の進行とともに、人口減少、地方から都市への人口移動による地域格差などにより、市の将来に極めて深刻な影響をもたらすことが懸念されています。その中で、浜松市の課題として、18～22歳の人口流出があげられています(下記参照)。しかし今、この課題に立ち向かうためにも、学校教育を通じ、未来に向けて、子どもの社会性の向上・自立の促進という男女共同参画に対する意識付けをしていく必要があるのです。学校教育により、世代を超えて男女共同参画の理解が深まることで、今後は若い世代の人口流出を防止するだけでなく、ひとりひとりが能力を発揮・活躍できる地域となり、多くの人が浜松に魅力を感じ集まって来るようになるとうれいですね。



■性別にみる、仕事・家庭・個人の生活の優先(希望と現実)

性別	現実 (n=228)	仕事優先					家庭生活優先					個人生活優先					
		仕事優先	家庭生活優先	個人生活優先	仕事と家庭生活にともに優先	仕事と個人生活にともに優先	家庭生活と個人生活にともに優先	仕事と家庭生活と個人生活にともに優先	仕事と個人生活と個人生活にともに優先	仕事と個人生活と個人生活にともに優先	仕事と個人生活と個人生活にともに優先	仕事と個人生活と個人生活にともに優先	仕事と個人生活と個人生活にともに優先				
男性	現実	47.6	13.5	1.8	21.6	2.8	3.3	2.2	7.0	7.6	30.6	4.5	28.9	3.7	13.0	5.8	5.9
男性	理想	7.6	30.6	4.5	28.9	3.7	13.0	5.8	5.9	7.6	30.6	4.5	28.9	3.7	13.0	5.8	5.9
女性	現実	41.2	14.7	1.4	23.9	3.2	4.6	2.1	8.9	5.7	26.7	3.9	33.3	3.7	13.6	7.3	5.8
女性	理想	5.7	26.7	3.9	33.3	3.7	13.6	7.3	5.8	5.7	26.7	3.9	33.3	3.7	13.6	7.3	5.8
合計	現実	45.9	13.9	1.7	22.3	2.9	3.7	2.2	7.4	7.0	29.5	4.3	30.1	3.7	13.2	6.2	5.8
合計	理想	7.0	29.5	4.3	30.1	3.7	13.2	6.2	5.8	7.0	29.5	4.3	30.1	3.7	13.2	6.2	5.8

●内閣府 ワークライフバランスに関する個人企業調査(平成26年5月)より作成

浜松市の場合、地域のまつりや行事、防災訓練等を通して、地域の人が顔を合わせ、かかわりあう機会があります。この機会を上手に活かして、地域とのつながりを楽しみながら深められるとうれいですね。

災害時の教訓

過去の大きな災害の後、避難所生活の中で、たくさん問題点が指摘されました。例えば運営上の問題として、「炊き出しは女性、泥の掻き出しは男性」と性別によって役割が決められてしまったことや、防災組織に男性の割合が高いことから、支援物資として届いた女性用品の配布などをどのようにすればよいか困ったり、必要な人に届かなかったりしたということもありました。災害時には、地域の助け合いが重要です。

そのためにも、日頃から地域とのつながりを作っておくことは大切です。性別や年齢で区別することなく、女性も防災組織に入り、被災後の生活が「おたがいさま」の気持ちでより良く過ごせるように、工夫して知恵を出し合える関係が実現できると良いですね。

ローマは1日にしならず！
地域とのつながりも、日頃からの
関係性の積み重ねが大事ね！



あなたの「男女共同参画」のカタチ

1. 「男女共同参画社会」とは？

固定的な価値観にとらわれることなく、誰もが家庭・職場・地域などのあらゆる分野に参画する機会があり、ひとりひとりが自由に選択することができること、そして、それらをお互いに認め合うことができる社会です。



なぜ「参加」ではなく「参画」という言葉が使われているのでしょうか。これは男女の別なく誰もが、積極的に意思決定の場に加わり、仲間になるだけでなく、平等に議論ができ、意思決定できる社会を目指そうということの表れです。

2. なぜ男女共同参画が必要なの？

少子高齢化や社会経済情勢の急速な変化により、男女の別なく、仕事・家庭・子育て・介護・地域への参画すべてに、誰もが関わっていく可能性がります。

例えば少子化の要因のひとつに「家庭と仕事との両立が難しい」ということがあります。この問題を解決するためには、子育て中の当事者だけが奮闘すればよいというのではなく、家庭と仕事を両立しやすくするための環境整備や周囲の理解、つまり男女共同参画の視点が必要です。

同じように周囲を見渡すと「おかしいな？」と気づくことがあります。みなさんの周りで、「力仕事だから男性にお願いしよう」「男だから弱音を吐けない」「自分（男性）が出産するわけではないのに、育休とるのか?」「会長は男性、副会長は女性になってもらおう」というような、古くからの固定観念により、誰もが持っているはずの「選択する自由」を奪ったり奪われたりする場面に遭遇することはありますか？

このように男女共同参画が必要な場面は、案外身近にあるものです。男女共同参画のたくさんの課題の中で、どの課題が自分に関係しているかは、みんな違います。自分も周りの人もできるだけお互いに気持ちよく生活できるようにするためには、性別によって役割を決めつけるのではなく、男女が互いの人権を尊重する社会を築くことが必要なのです。そして、当事者だけでなく、みんなで問題解決に取り組むことが大切なのです。

column 「こらぼ講座」で学ぼう！男女共同参画

男女共同参画アドバイザー（市民講師）が皆さんのもとへ出向き、男女共同参画について、わかりやすく説明したり、ワークショップなどを行ったりします。実施時間は午前10時から午後9時まで、1講座120分以内です。詳細や申込みは浜松市ホームページでご確認ください。

こらぼ講座

検索



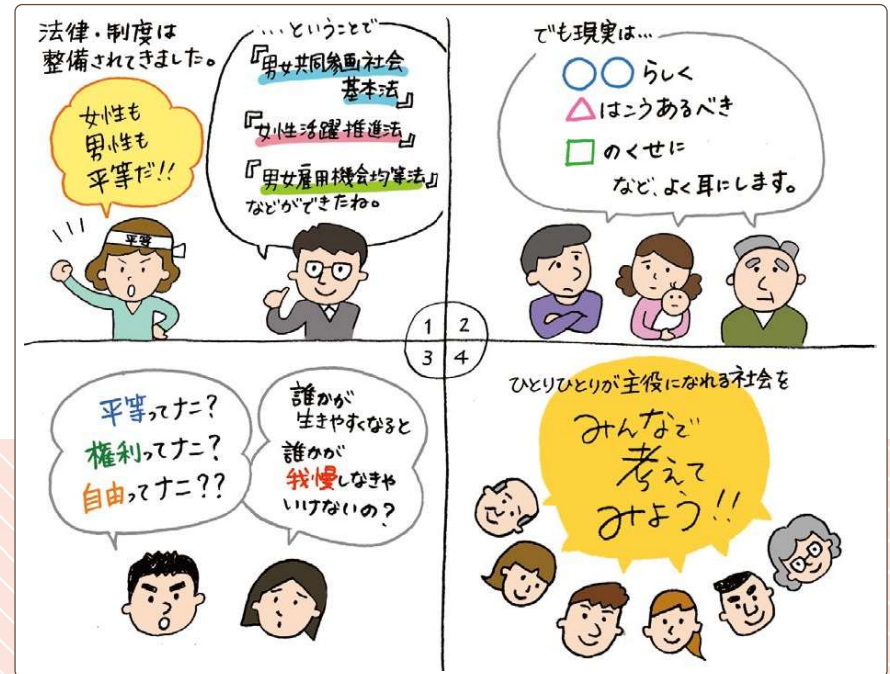
3. どうすれば男女共同参画がもっと推進されるの？

世代によって、育った環境や社会情勢が違いますので、男女共同参画に関する考え方や感じ方、行動も違います。違う者同士が、お互いのことを思いやり、認め合うことが、男女共同参画社会の実現への近道となります。

また、「男女共同参画の推進といえば、『女性の自立』『男女平等』を促す」と良く言われますが、男性だけが変われば、あるいは、女性だけが変われば、男女共同参画社会が推進されるというものではありません。

現在は、ひとりひとりが尊重され、さまざまな選択肢の中から選ぶ自由があり、周囲の人もそれを認めようとしています。誰もが「選択の自由」を持ち、みんなで支え合う男女共同参画社会の実現に向けて、さらに前進させませんか？

時代や育った環境が違うから、考え方や感じ方が違うのは当たり前。



4. 男女共同参画を推進するコツはあるの？

「ハラスメント」に過敏にならないようにしましょう！

最近、セクハラ、パワハラ、モラハラ、マタハラなど、「〇ハラメント」という言葉があふれています。

人が不快になったり傷つくことを言ったり、行ったりすることは良くないことです。しかし、なんでもハラスメントだと言ってしまうと、かかわりを持つこと自体が困難になります。「ハラスメント」と思われたいためには、お互いの良好な関係性を作っておく必要がありますし、「親しき仲にも礼儀あり」ということで、お互いの立場や気持ちを考え、かかわっていくことが大切です。



「ありがとう」は魔法の言葉

「ありがとう」と言われれば、うれしくなり、次も頑張ろうという気持ちになります。例え「やって当たり前」のことで、「ありがとう」の言葉がけは、次につながる魔法です。ですから、「言わなくても通じる」ものではなく、口頭で、時には文章で、伝えましょう。

職場でも、時短勤務や有休を使うことは、「職員の権利」かもしれませんが、「権利を使うのは当然」という気持ちではなく、「ありがとう」という気持ちを職場で伝えることで、みんなが気持ちよく仕事に取り組みます。家庭や地域でも、お互いを認め合い、親しい関係があっても「ありがとう」と言葉にすることが、スムーズな人間関係を築きます。「ありがとう」の魔法を使ってみませんか？



ひとりでがんばりすぎない!! おたがいはまの気持ちがパートナーシップを育てる!

誰もが人とかかわりあいの中で生きています。ひとりで全部ががんばりすぎるとは、困った時にはおたがいきまで、誰かの助けを借りてもよいのではないのでしょうか。

困った時にすぐに相談できる人や頼りにできる場はありますか？相談することによって、自分の問題解決ができるだけでなく、もしもその困りごとが世間の多くの人が感じていることならば、社会問題を解決する糸口になることさえあるのです。悩んだり困ったりしているのは、みんな同じかもしれません。だからこそ、時にはひとりでがんばりすぎないで、誰かに相談してみることもおすすめします。頼ったり頼られたりする思いやりの連鎖が、地域や社会の助け合いとなり、お互いの立場を考え認め合うことが男女共同参画社会につながります。



5. あなたが実現したい男女共同参画のカタチは、どんなカタチ？

- ◆あなたが実現したいこと
- ◆実現するために自分ができること
- ◆実現するために必要な家庭・職場・地域などの変化

6. 浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター(あいホール)は、男女共同参画社会づくりのための拠点施設です。

～ひとりで悩んでいるあなたへ～

あいホール相談室を活用してください。

電話：053-412-0352

※ご相談内容に関する秘密は厳守いたします。安心してご相談下さい。相談は、電話または面談(託見有)にて行います



あいホール 検索

7. 男女共同参画社会実現へのステップ

- ①固定観念を打ち砕く
- ②選択の自由がある
- ③お互いを認め合う

